

近畿大学 教育論叢

The Research Journal of the Department of Teacher Education
Kindai University

第29卷第3号



2018

■ 近畿大学教職教育部 ■

近畿大学教育論叢

第二十九卷第三号

平成三十年（二〇一八）三月

近畿大学教職教育部

 近畿大学

目 次

1. 論 文

『小学国語読本』使用時期の国語教育界における自然愛の語られ方とその養成論

日本精神と自然愛

Discourses and Training Theory of “ Love of Nature ” in the Japanese Language

Education History During the Period of Using “ Shogaku Kokugo Tokuhon ”:

“ Nihon-Seishin ” and “ Love of Nature ”

..... 林 潤平 (HAYASHI Junpei)..... 1

防災意識を向上させる学習要素

中学校理科単元「自然の恵みと災害」の実践から

Learning Contents to Make Students Foster the Motivation of Disaster Prevention in

the Lower Secondary Class Unit “ Blessings and Disaster of Nature ”

..... 吉川 武憲 (YOSHIKAWA Takenori).....31

統計的問題解決における知識活用を重視した教師用シナリオ型教材の開発に関する研究

A Study on Development of Teacher Scenario Type Teaching Material with

Emphasis on Utilization of Knowledge in Statistical Problem Solving

..... 西仲 則博 (NISHINAKA Norihiro).....51

『こゝろ』のゆくえ

文学的教材の問題提起的なアクティブ・ラーニングの試み

How Should We Let Students Read “ KOKORO ”?:

Active Learning for Which Literary Teaching Materials Are Utilized

..... 中田 睦美 (NAKATA Mutsumi).....73

工業科教育法における実践と課題

Practice and Issues in Method of Vocational Industrial Education

.....丸岡 俊之 (MARUOKA Toshiyuki).....93

「教職入門」における「チームとしての学校」の学び

“ School as a Team ” in “ Introduction to Teaching Profession ”

.....梅田 和子 (UMEDA Kazuko)... 109

2 . 委員会報告

「教職入門」導入期について

「教職入門」FD 研修会での資料

.....富岡 勝 (TOMIOKA Masaru)... 123

3 . 随 想

教職教育部での16年間

.....辰己 勝 (TATSUMI Masaru)... 133

4 . 編集発行内規

5 . 投稿要領

6 . 編集後記

『近畿大学教育論叢』編集発行内規

第1条 近畿大学教育論叢（以下「本誌」という）は、教職教育部が年1回以上発行する。

第2条 本誌の編集、発行の任にあたるため編集委員会を置く。

2. 編集委員会は、委員長1名、委員若干名をもって構成する。
3. 委員長、委員は、教職教育部教授会の承認を経て、教職教育部長が委嘱する。

第3条 投稿者（執筆者）は、原則として本学園教職員に限る。但し、編集委員会の議を経て教職教育部長により投稿を認められた者はこの限りではない。

2. 投稿者は、別に定める「投稿要領」に従って、原稿を作成することとする。

第4条 原稿の校閲および採否の決定は、編集委員会が行う。

2. 編集委員会は、投稿原稿の本誌掲載の採否を判断するため、審査を行う。
3. 編集委員会は、投稿者に対し、上記審査に基づき、内容の修正等を求めることができる。

第5条 編集発行内規の改正に関しては、編集委員会の議を経て、教職教育部教授会で決定する。

第6条 当該原稿の著作権は、著作者および共著者に帰属する。

2. 著作者および共著者は、当該原稿に係わる複製権、公衆送信権及び譲渡権の許諾を近畿大学に与えるものとする。
3. 近畿大学が当該原稿の電子化・公開を委託する機関に対して、公衆送信権および複製権の許諾を与えるものとする。

附 則

この内規は、平成24年4月1日から施行する。

『近畿大学教育論叢』

(The Journal of the Department of Teacher Education, Kindai University)

投稿要領

- 1) 原稿は未発表のものに限る。
- 2) 原稿は原則として、ワープロを使用して作成、提出するものとする。
- 3) 原稿締め切り時に、原稿をコピーしたものを3部、提出する。査読終了後、掲載が決定した論文については、コピーした原稿1部と、訂正したデータをメールで編集委員会に提出する。
- 4) 原稿には表紙を付し、次の事項を記入する。
 - イ．表題（含む副題）
 - ロ．表題の英文（含む副題）
 - ハ．氏名、所属、職名
 - ニ．連絡先（教職教育部の専任以外の投稿者の場合、メールアドレスを含む）
 - ホ．別刷りの必要部数（規定部数を50部とし、それを超える分は自己負担とする）
 - ヘ．キーワード（5個以内）
- 5) 用紙はA4判を用い、原則として横書きで原稿を作成する。40字×30行の書式で、原則30枚以内とする。
- 6) 手書きの場合は、投稿者は編集委員会に申し出る。前項の字数を超えないことを条件に、書式、枚数などを協議する。
- 7) 本文中で、活字の大きさ、書体を変える場合は、具体的に指示する。
- 8) 表、図、写真などは、刷り上がりの大きさを指定し、具体的に指示する。
- 9) その他原稿の投稿に関しては、編集委員会で協議する。
- 10) 投稿原稿の執筆は、次の通りに行う。
 - 英文の題名、副題、著書名については、すべての単語（前置詞および、冠詞 the などを除く）の最初を大文字にする。
 - 英文論文題名の副題は、コロン（:）で分ける。
 - 和文の句読点は、（、）（。）を用いる。文献では、コンマ、ピリオドを認める。
 - 図は、Figure 1、Figure 2 あるいは、図 1、図 2 とし、表は、Table 1、Table 2 あるいは、表 1、表 2 のように通し番号をつけ、論文内で統一された表記を使用する。
 - 必要に応じて大見出し、中見出し、小見出しを用い、その表記は次のようにする。

大見出し 1 .2

中見出し (1)、(2).....

小見出し 、

引用文献・資料は、以下のように記述する。なお注について文献を示すことも可能とする。

著書名、発行年、題名、出版社、引用ページ数（頁、ページ、pなど）

引用論文の表記については、次の順に記述する。

著書名、発行年、論文名、雑誌名、ページ

平成29年7月1日 改訂

編集後記

平成29年度の近畿大学教育論叢第3号を発行いたします。本号には論文6本、委員会報告、随想を掲載しております。ご多忙のなか、多くの論考をお寄せいただきまして感謝申し上げます。

掲載論文はいずれも、各執筆者の専門性が発揮された秀作です。まず林論文は、昭和初期の小学校の国語教育論を対象に、そこで語られている「自然愛」やその養成論を当時の情操教育論と関連づけながら考察することによって、自然愛の養成論の歴史的な変化を明らかにしています。研究の意義や独創性、史料にもとづく着実な論証など、完成度の高い論文です。

次に吉川論文では、第1号に引き続き、「防災教育」の取り組みについての研究成果を報告していただきました。子どもたちの命を守るためにも、防災意識を高める教育は極めて重要です。今後の成果がさらに期待される研究だと思えます。また、西仲論文は、学習指導要領の改訂により、中学校の数学科教員が直面する課題を踏まえ、有効な教員研修の教材（シナリオ型教材）を開発しています。指摘された改善がなされ、早急に実用化されていくことが期待されます。そして中田論文では、高等学校国語科の文学教材の取扱いにおける課題に触れ、効果的な教材提示の手法が提案されています。生徒の知的好奇心や探究心を刺激する「仕掛け」を取り入れ、主体的な読みを引き出そうという試みは、高等学校における文学教育の意義を考える契機にもなるでしょう。

さらに丸岡論文と梅田論文は、教員養成改革を受けて今後求められる教育課程上の課題に対して、本学の教員養成教育がどう応えていくか、その一例を示してくれています。こうした論文からは、教員養成に対する本学の取り組みの姿勢や日々の教員の指導への思いも窺い知ることができます。また、梅田論文は、教職教育学部が開催したFD研修会での発表を下敷きに、加筆修正されたものです。今号には、研修会の記録として冨岡教授による論考も掲載しておりますので、併せてご一読いただければ幸いです。

最後になりましたが、今号では、3月をもって退職されます辰己先生に、随筆という形でお言葉を頂戴いたしました。16年という長きにわたって教職教育部を支え、導いてくださった先生のご尽力に、感謝の念は尽きません。地理学研究への取り組みはもとより、学生たちに注がれる先生の優しいまなざしに、私たちは研究者として、教育者としての姿勢を学ばせていただきました。先生が身をもってお示しくくださったことを大切に、その思いをしっかりと引き継いでいくことで、ご恩返しができればと思います。

近畿大学教育論叢編集委員会

光田尚美、小口功、辰己勝、下村隆之

近畿大学教育論叢 第29巻第3号

平成30年3月20日 印刷

平成30年3月20日 刊行

発行人 近畿大学教職教育部長
戸井田 克己

発行所 近畿大学教職教育部
577-8502

東大阪市小若江3丁目4番1号

印刷所 近畿大学管理部用度課(出版印刷)
